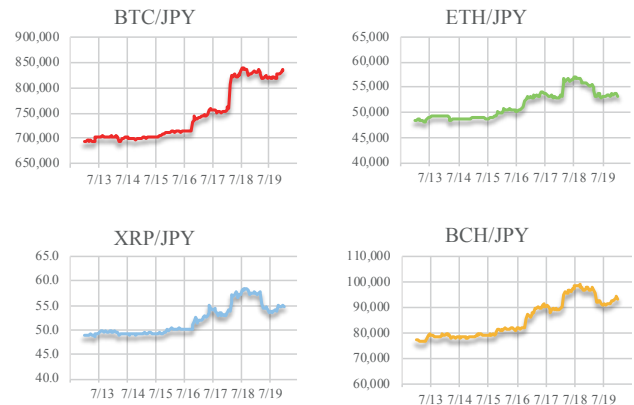




今週の相場動向

相場回顧 BTC大幅上昇 最大手ETF 企業参入観測が影響か

BTCは7/16に直近の上値として見られていた74万円付近を大きく超え、7/18にかけて大幅上昇した。今回の上昇要因について、米国において最大手ETF企業ブラックロックが仮想通貨業界に参入するとの憶測が広がった為と指摘する声は多い。しかし、ブルームバーグのインタビューで同社CEOは仮想通貨への関心を否定しており、真相は定かではない。テクニカルで見た時には、6月の下落以降チャートは綺麗な逆三尊を形成している。ETHはTX詰まりを受けてか弱い動きとなった。また、BTC大幅上昇を受けその他通貨に下げ圧力が掛かる中、BCHは前週に続き強い動きを維持している。



今週のトピックス

- ・米司法省、仮想通貨を使い大統領選に介入したロシア諜報員を起訴。(7/13)
- ・米国取引所 Coinbase、アルトコイン5通貨の新規上場を検討。(7/13)
- ・スイス大手証券グループ、仮想通貨取引サービス提供を検討。(7/15)
- ・米決済プロバイダ Bitpay、NY州でビットコインライセンス取得。(7/16)
- ・韓国取引所 Bithumb、日本とタイに進出へ。(7/16)
- ・LINE、仮想通貨取引所 BITBOX の運営を開始。(7/16)
- ・米最大手ETF企業ブラックロックの参入観測が高まる。(7/16)
- ・IBM、米ドルとベッグした仮想通貨発行で米 Stronghold社と提携。(7/17)
- ・ロシア、仮想通貨保有者とマイナーを既存法にて規制か。(7/18)
- ・世界4大会計事務所、ブロックチェーン活用に向け台湾の銀行と連携。(7/19)

	BTC/JPY	ETH/JPY	XRP/JPY	BCH/JPY
13-Jul	703,102	49,210	49.49	79,236
14-Jul	700,995	48,947	49.13	78,466
15-Jul	711,913	49,958	50.04	81,076
16-Jul	742,206	53,097	51.38	87,302
17-Jul	756,399	52,838	53.07	89,902
18-Jul	832,170	55,398	57.75	96,881
19-Jul	833,629	53,110	54.83	93,100
前週対比	19.94%	9.60%	12.24%	20.76%

※終値を日本時間0:00とする

来週の相場予想

来週の相場予想

BTCは軟調な推移となるか。今週の上昇を受けて、短期筋の利益確定売りにより一時的に価格を下げる場面が見られるだろう。また、月末の調整売りも入り来週は上値の重い展開が予想される。一方で、今回の逆三尊形成により底をついたとの見方も広がり、投資家心理は改善しつつある。急な悪材料無しに相場が大きく下落するとは考えづらく、次に下値として意識されるのは5月末に付けたBTC=78万円付近だろう。上値としてはBTC=84万円を超えられるかに注目である。SECによるビットコインETFの承認可否を前に、界限では金がETF承認を受けた時のチャートと今のBTCチャートの動きが似ていると話題であり、承認後の暴騰に期待が集まっている。

来週のトピックス

- ・ブエノスアイレスにてG20開催(7/20-21)
- ・Blockchain Partner Summitがソウルで開催(7/20-21)
- ・Bytecoin、High Load Resistanceリリース(7/23)
- ・Waves、DEXとウォレットのβ版リリース(7/24)
- ・EOSが仮想通貨取引所Bitpandaに上場(7/24)
- ・NEM Meet-upがコロンビア、ペルーで開催(7/25,26)
- ・3RDブロックチェーンカンファレンスが米国にて開催(7/26-27)
- ・ドラギ ECB総裁定例会見(7/26)
- ・EOS Meet-upがロシアで開催(7/27)
- ・CME BTC商品先物最終取引日(7/27)

ICOスケジュール

Date	Project	Category	Pre/Crowd	Period	Hardcap
23-Jul	Allspark	コンテンツ制作・配信	Crowd	7/23 - 8/15	40,000ETH
25-Jul	Decentralized News Network	ニュース配信	Crowd	7/25 - 8/22	35,000ETH
27-Jul	Aenco	ヘルスケア	Pre	7/27 - 8/31	\$60,000,000
	BitForex	取引プラットフォーム	Crowd	7/27 - 7/31	55,000ETH
28-Jul	Gravity	コンテンツ制作・配信	Pre	7/28 - 8/11	35,000ETH

・本資料は情報提供を目的とし、弊社が信頼でき、正確であると判断した情報に基づき作成されていますが、弊社はその情報の正確性を保証するものではありません。

・記載された意見や憶測等は作成当時の筆者の一見解を示すものであり、記載された内容を投資等にご利用になる際には、ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。



規制動向

7/18、米国議会で仮想通貨の規制に関する公聴会が開かれ、政府関係者、金融人、法律家と言った各方面の専門家が参加した。このような会は過去にも何度か開かれているが、今回議論的になったのは、仮想通貨の管轄をどこが担うかである。この判断を行う上では、トークンがセキュリティとユーティリティどちらに見なされるかが重要であるとされた。前者であれば米国証券取引委員会（SEC）、後者であれば米国商品先物取引委員会（CFTC）が管轄になるだろうというのが大方の見方である。現状、ほとんどのトークンが証券として見られており、基本的にはSECが市場を管理すると思われる。しかし、証券としての過剰な規制は市場の発展を抑制するとの声も聞かれた。

技術動向

ビットコインコア開発者の一人である Pieter Wuille 氏が、Segwit に次ぐ大きなアップデートとして期待されているシュノア署名のドラフトを Github 上で公開した。今回の提案はビットコインの電子署名に使われている楕円曲線暗号（ECDSA）を改善しようというものである。ECDSA は電子署名の方法の中でも RSA や DSA に比べて署名データサイズを縮小することで、ビットコインにも適していると言われていたが、主に、非展性を備えている点、複数の署名データを一つにまとめることができスケーラビリティをより改善できる点から、シュノア署名の方がより適していると業界では以前から議論されてきた。今後実装に向けてコミュニティ内の合意が得られるかに注目である。

個別企業動向

7/19、マルタ証券取引所（MSE）は中国仮想通貨取引所 OKEX と共同してセキュリティ（証券型）トークンに特化した取引プラットフォームを開発すると発表した。また、MSE はあらゆる証券や金融商品のトークン化、発行が可能な取引プラットフォームを運営する Neufund との提携についても発表した。マルタは仮想通貨フレンドリーな国としても注目されており、小国乍ら国として仮想通貨、ブロックチェーンの促進に動いている。今年に入り先述した OKEX や大手取引所 Binance といった多くの業界関連企業が相次いでマルタに拠点を設けており、今回の MSE による発表はトークンのセキュリティ化が業界でも注目される中で、そのプレゼンスを取る為のものと思われる。

コラム：若者が仮想通貨投資に夢中になるのは悪いこと？②

「仮想通貨が世間に広まる為には投機が必要である」これは堀江貴文氏が過去に述べた言葉であるが、2017年にBTC価格が爆上がりして以降、確かに世間における仮想通貨への注目度は高まった。今年に入り価格が下落している為、個人の関心は下火となっているが、その一方で企業による業界参入は急速に進みつつある。仮想通貨のユースケースは依然少なく、技術的にも発展途上ではあるものの、この先5年間で業界あるいは社会全体が大きく変わることは容易に想像がつくだろう。堀江氏の言うように、投機をきっかけに仮想通貨が業界として体をなしてきたのである。確かにこれは投機がもたらした重要な結果である。しかし、私が言いたいことはより中長期的な話だ。

その他アルトコイン動向（参考）